

米国における COVID-19 の影響等について

室屋 孟門 (むろや たけと/元インターン生 米国留学中)

米国滞在者の観点から、COVID-19 の影響等について報告したいと思います (4月24日時点)。

COVID-19 の感染拡大は、本当にあっという間に人々の生活を変化させました。私は2月まではNYで普通の学生生活を送っていました。中国からの渡航者を制限していると言われていましたし、NYでは感染者もずっと出なかったのですが、意外と大丈夫だと思っていた部分もありました。しかし、状況が一変したのは、3月頭に感染経路が不明の(確認された)感染者が出た時でした。大学も休校になるかもねと、冗談交じりに友人と話していましたが、それからわずか1週間で全ての授業がオンラインに切り替わってしまいました。NYが緊急事態宣言等を出す前だったので、大学独自の判断だったと思います。それから基本的には外出がままならない状況となり、スーパー等の必要な経済活動以外は全てロックダウンされてしまいました。

米国の感染者の増加は日本に比べても速いように思います。勿論検査の実施数が違うこと等も大きいと思いますが、国民性や文化の違いも影響しているのかなと思います。

まず、こちらの人はマスクを付けることに抵抗があるようで、最近まで多くの人がマスクせずに外出しているのを目にしました。マスクの予防効果には議論があるところですが、少なくとも意識が高いとは言えないように思います。また、これは普段から思っていたことですが、レストランで食事をする時、ウェットティッシュのような手を拭くものは事前に出てきません。

さらに、COVID-19の捉え方が地域や人によって違うのも特徴だと思います。トランプ

大統領は当初、COVID-19はインフルエンザのようなものと軽視しており、感染拡大後は防止策に対応しつつも、経済を早く再開したいという思惑が見え隠れし、民主党の州知事たちと意見の違いで攻防を繰り返しています。最近では、比較的感染者の少ない地域で、共和党支持者を中心に、自宅待機命令の撤回を促すデモなども始まっています(ミシガン州等)。このように、色んな文化や考え方が合わさった国という強みが、感染対策には弱みにもなりうるのかもしれませんが。勿論日本も現時点で感染者が急増しており、大変な状況であることに変わりはありませんが、対応の仕方は米国と変わってくるのではと思います。

COVID-19の陰に隠れてしまった印象のある、民主党の大統領予備選挙も盛り上がりを見せていました。最終的には撤退を表明しましたが、特に、急進左派と呼ばれるサンダース氏の躍進は目を見張るものがありました。国民皆保険や大学無償化など、自らも民主社会主義と唱えるほど思い切った政策を打ち出し、若者を中心に相当数の支持を得ていました(ネバダ州までは優勢)。

私にとって米国は、自由資本主義を旗印に、能力や業績があれば評価されて成功し、そうでない人への社会保障は抑制的との印象がありました。しかし、格差拡大や現政権への不満等から、米国民が基本的には毛嫌いしていた社会主義的な政策に関心が集まっていることは興味深く思います。現在のパンデミックで、トランプ政権に注目が集まっていますが、対応の結果次第では、米国も社会福祉を充実させる方向に向かうのでは、と感じています。